



ぶら研

「すんくじら」

令和6年度 志和池小 校長室から ぶらっと研修 I

4月15日 文責 田爪

新年度がスタートして、ちょうど1週間が経過しました。

どうですか。つかれがたまっていますか。毎日、遅くまで残って仕事されている先生方も多い状況です。

「仕事が終わらない」と気になって帰れないかもしれませんが、

「仕事は終わりにしないと」終わりません。

子どもたちのためにきめ細かな準備ありがとうございます。

ポジティブ行動支援 ～スクールワイドPBS～

スクールワイドPBSは、学校全体で取り組む「ポジティブな行動支援」のことで、児童生徒が示す問題行動に対し、それを罰するのではなく、「望ましい行動を育てる」という発想のもと、学校の実情や課題等を踏まえて場面ごとに行動目標を設定し、学校全体で全ての児童生徒を対象に取り組む組織的アプローチです。

これについて、何回かに分けて示していきたいと思います。

教師にとっては、頭の中では、「がんばっている子に声をかけた方がいい、ほめた方がいい」とはわかっている、実際に教室にいると様々な事象に追われて、なかなか実行することが難しいと思います。

また、「当たり前」思考が働き、「できて当たり前」と無意識に思うことで、自ら子どもたちの評価基準を高めてしまい、ほめる機会を逸してしまうことがあります。

子どもの問題行動ばかりに目を向けて、それに対して注意・叱責を繰り返し、その問題行動が起きないようにするのか、それとも、

子どものポジティブな行動に目を向けて、その行動を承認、賞賛し、その行動がこれからも出現するように、増えるようにするのか、

この立場には大きな違いがあります。

さて、今、新年度が始まり、子どもたちががんばろうという意識が高まっているこの時期こそ、特別なことではなく、「できて当たり前のこと」でも、できていることはポジティブな行動として、承認、賞賛をしていくといいなと思います。

「お母さんの話を聞いて、心があたたかくなりました。」

先日、事務室から聞こえてきた電話対応の言葉です。これを聞いたお母さんは勇気づけられたと思います。

さて、電話対応のスキルを競う全国大会があるそうですが、6000人の中から日本一になった方の話です。

電話越しに相手の感情を読み取るコツとは、「電話なんですけど、そこにいるように語りかける感じで話すようにしています」と言っています。また、電話オペレーターとして、「よく後輩たちに言うのは、話す仕事ではなく、聞くことだと伝えていきます」と言っています。

相手を意識するには、電話であっても相づちを打ちながら聞くといよいそうです。